



思い立ったが



トトロの ふるさと基金

団体名：

公益財団法人トトロのふるさと基金

〒359-1164 埼玉県所沢市三ヶ島三丁目1169-1

TEL：04-2947-6047

<http://www.totoro.or.jp/>

マンションとビル群の往復、コンクリートに囲まれ、人混みのなかで暮らす日々には疲れ果ててはいないだろうか。作られた緑ではなく、もともとある自然と向き合いたい、そんな気持ちにさせられる場所がある。

東京都と埼玉県にまたがる狭山丘陵。トトロのふるさと基金は、この地域の自然を守るために、自然や歴史的建造物などを市民や企業からの寄附金により買い取るナショナル・トラスト活動により、里山の自然環境調査や維持管理作業、普及啓発や環境教育を行っている。丘陵が映画『となりのトトロ』のモデルの一つとなったといわれており、監督の宮崎駿さんの賛同を得て土着の市民運動を基本に活動している。

もともとは、地元の自然や景色を守りたいという3団体がつながり、1990年にトトロのふるさと基金委員会を発足。ナショナル・トラストにより40カ所の「トトロの森」を取得し、保全し続けている。また、地域に伝わる古民家を「クロススケの家」と名付け事務所として活用し公開することで、普及啓発に努めている。トトロの森は、動植物の生息調査をして、例えば「明るい落葉樹の森にしよう」といった管理方針を定め、伐採や下草刈り、落ち葉掃きなど、具体的な管理作業に移っていくという。

ボランティアは登録制で約160名が登録し、50名ほどが定期的に活動を続けており、年齢層は幅広いという。どの活動もボランティアが中心となっている。自然につ



「北野の谷戸の芽会」の活動は、親子での参加も可能だ。



トトロの森の散策会の様子。



事務所（クロスケの家）は国の登録有形文化財にもなっている。



このコーナーでは、毎回一つの団体を取材し、活動内容やそこで活動するボランティアさんの生の声をお届けします。

「トトロの森で何かし隊」では、カマでの草刈りなどの活動を月2回のペースで行っている。

いての知識と経験が必要だが、事務局スタッフの田中さんは「これから自然を学びたい、覚えたいという方でも、みんなと一緒に作業を楽しみながら、無理なく馴染むことができます」と言う。詳しい人に教わり、学びながら慣れていくこともできるようだ。

初めて活動に参加する人向けのプログラムも用意されていた。一つが「トトロの森で何かし隊」。文字通り「何かをしたい」という想いから立ち上げたサークルで、「無理せず、参加できる時に、できることを、できる人がやろう」という考えにもとづき、カマでの草刈り、のこぎりを使った伐採作業、落ち葉掃きなどの活動を月2回行う。同基金の会員となり、説明会を受け、登録することで参加できる。もう一つは、「北野の谷戸*の芽会」で、地元の人と協力しながら昔ながらの里山の再生に取り組んでいる。主な活動は、田んぼを復元しての稲作、雑木林の管理、畑の開墾と畑作があり、月1回活動している。保護者同伴なら、小さな子どもも参加可能だ。どちらも、収穫祭など交流を深めるイベントが設けられている。

今後は「開発の危機にさらされている森がまだまだあるので、保全できる森をさらに増やしたいと思っています。さまざまな人や自然に触れることで、森の魅力を知ってもらいたい」。日頃を都会で過ごしていると息詰まることもある。たまの休みは、1人で、はたまたファミリーで、都心から1時間の自然あふれる場所で汗をかき、昔の暮らしに触れてみるのはいかがだろうか。

*丘陵地が浸食されてきた谷状の地形。または、そのような地形を利用した農業と生態系を指すこともある。谷（や、やと）、谷津（やつ）、谷地（やち）、谷那（やな）と呼ばれることもある。

ボランティアさんへ 一問一答!



写真は左から、梁取智さん、江守敦史さん、
江守香音さん（江守さんの娘さん）

梁取^{やなとり} 智さん（公務員）

Q 今までに他のボランティアをしたことはありますか？それはどんな活動ですか？

A 地元の新潟県で水害被災支援ボランティアとして民家清掃、漂着物撤去作業に参

加したことがあります。

江守敦史さん（一般社団法人職員）

Q ボランティアをやるうと思っただけ・動機は何ですか？

A 他人のために貢献したいという社会的理由と、日々の生活を離れて精神的に充足感を得たいという個人的理由からです。

Q 今までに他のボランティアをしたことはありますか？それはどんな活動ですか？

A 農家さんや漁師さんなど、一次産業のお手伝いや地域の清掃ボランティアなど。

Q ボランティアを探すうえで重視したポイントは何ですか？

A 第一に自然の中で身体を動かす活動内容であること、第二に多様な世代間で交流できる場であることを重視しました。

Q この活動はどうやって見つけましたか？

A Webで「里山」について検索していた偶然出会いました。

Q 参加してみても感想を教えてください。

A 単なる植物保護ではなく、生物多様性の保全や循環型里山文化の継承によって「人が自然に触れる機会を増やすこと」こそが環境保護への近道なのだと実感しました。

Q いつからどのくらいの頻度で参加しますか？

A 今年の春から、1、2カ月に1度参加しています。

Q 参加してみても感想を教えてください。

A 地域内にこんないい場所があったんだという発見、そこに集う人たちのコミュニティの素晴らしさを感じました。

Q これからボランティアを始めてみようと思っている人へ、一言メッセージをお願いします。

A ボランティアにぜひ挑戦してみてください。きっと心から楽しめるはずですよ。

Q これからボランティアを始めてみようと思っている方へ、一言メッセージをお願いします。

A まずはやってみる。そのうえで、自分に合えば無理ない頻度で続けるといいと思います。